

福島第一原子力発電所事故後 10 年の規制活動に関する国際規制者会議

10 年間の規制活動の総括と今後の展望

基調講演

山中伸介原子力規制委員長

1 冒頭あいさつ

- 福島第一原子力発電所事故後 10 年の規制活動に関する国際規制者会議の開催に当たりまして、まずは遠路東京までお越しくくださったパネリストのみなさま、そしてお忙しい中お集まりくださったみなさまに心より御礼申し上げます。
- この会議は、福島第一原子力発電所の事故のあと、原子力規制委員会が 10 年にわたって実施してきた規制活動を総括し、将来の展望について海外の原子力規制者との討論を行って、互いに学び合うことを目的として、OECD/NEA と共催で開催するものです。
- 本日、ここに国際規制者会合を開催できましたこと、この会議の開催に尽力いただいた OECD/NEA のマグウッド事務局長および NEA 事務局にも、この場を借りて感謝申し上げます。

2 福島第一原子力発電所の事故から 10 年の規制活動

- 2011 年 3 月 11 日に発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故は、複数の原子炉が炉心損傷に至る大事故で、発電所の敷地の外にも放射性物質による汚染が拡大し、多くの住民が避難を余儀なくされ、10 年が経過した今もなお帰還困難地域の解消には至っていません。
- 原子力規制委員会は、東京電力福島原子力発電所事故の教訓に学び、二度とこのような事故を起こさないために、そして、我が国の原子力規制組織に対する国内外の信頼回復を図り、国民の安全を最優先に、原子力の安全管理を立て直し、真の安全文化を確立すべく、設置されました。
- そして今年、2022 年に設置から 10 年を迎えましたが、この間に、従来よりも大幅に強化された新たな規制基準を策定し、既存の原子力発電所に対して新規制基準への適合性についての審査を行ってきました。また、新たな知見を得て規制基準を見直し、常に改善を図ってきています。さらに、国際原子力機関 IAEA が実施する総合規制レビュー-IRRS を招聘して原子力規制委員会が行う規制のレビューを行い、改善のための提言を受けました。その一つである検査制度については、新たな監視制度を 2020 年に導入しました。
- このような規制制度の改善を図りつつ、規制行政の透明性を向上させるために、原子力規制委員会の主な会議を公開し、併せてウェブキャストも行うこ

とで東京に足を運んでいただくことのできないみなさまにも、原子力規制に関する意思決定プロセスを見ていただけるようにしました。

- 原子力規制委員会がこれまで行ってきた改善は多岐にわたりますが、その活動にゴールがないことも事実です。原子力規制は安全の確保を最優先とし、科学的かつ合理的な基準に基づいて公正かつ独立して意思決定を行うことが必要ですが、規制者は国民から信頼されることも必要です。原子力規制委員会は設立から 10 年を迎えましたが、福島第一原子力発電所の事故で失った信頼の再構築はまだ道半ばであり、努力は継続しなければなりません。

3 この会議の意義

- この会議では、今取り組んでいる規制課題に対して規制者がどのような考えを持ち、活動しているのかに焦点を当てるため、海外の規制者からパネリストを招聘しました。しかしこの会議は決して規制者だけのためのものではありません。会場には原子力産業、学術・研究、行政と多様な分野からのお客様にお越しいただいています。それぞれのセッションでは、短い時間ではありますが、会場からのご意見、ご質問をいただく時間を設けますので、双方向の闊達な議論を行っていただきたいと思います。

- ここで、ごく簡単にこの会議で取り扱うテーマについて触れたいと思います。
今日、明日の2日間にわたり、ここで討論される規制課題は、「規制の枠組みの革新」、「自然ハザードの評価」、そして「信頼構築」というテーマです。
- 規制の枠組みについては、福島第一原子力発電所の事故から10年を経てどのような取り組みが行われたか、そして将来に向けた規制課題は何か、お互いの経験から学び合うことが重要と考えています。
- 自然ハザードについては、各国で自然環境が異なっていますが、たとえば我が国では地震や津波、火山の影響などが規制基準に盛り込まれており、バックフィットによって実施しています。このような自然ハザードについて、各国ではどのようなものが重視され、どのように規制で対処されているのか、多様な知見を共有することで将来に向けたインプリケーションを得ることを期待しています。
- 信頼構築は規制当局にとって重要な課題です。原子力規制委員会のこの10年は、信頼回復のための10年であったと言っても過言ではありませんし、今後も追求していくべきものです。また、これは世界の規制当局にとっても同様であると信じます。規制当局の信頼構築活動には様々な対象、様々なアプローチがありますが、それらを学び合うことの重要性はこの10年でいささかも変わることはありません。

- さらに、この会議ではトピカルセッションで原子力分野における女性の参加について、多様な立場からの意見交換を行うことにしています。今や世界ではダイバーシティが重要な政策目標となっていますが、我が国の原子力分野は女性の人口が少ないこともあり、キャッチアップを図らなければならない分野と言えます。難しい課題ではありますが、まずは議論をスタートさせることが重要です。

4 結び

- この会議では、福島第一原子力発電所の事故以降、我が国を含めて世界の原子力規制当局において取り組まれてきたことを持ち寄って、多様な意見を交換し、学ぶことが重要であると考えています。
- ここで取り扱うテーマは規制課題の一部であり、数時間討論を行うことで解決に至るものではありませんし、どこまでやれば十分というようなゴールがあるものでもありません。そうであるからこそ、学び続けることが必要です。
- このようなテーマを討論するには、2日間という時間は決して十分ではありませんが、その中でも多くを学ぶことができるよう、実りある討議が行われることを期待しています。